夕刊 磐城新聞
五月二十日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六十五錢(郵稅拾五錢)
發行所 磐城新聞合資會社
(日曜祭日翌日休刊)

土屋文明氏の歌

木村源正

二

けれども恩愛をかうむつた恩人の思ひがけぬ死に會つた時、氏は流石に驚愕を禁じ得なかつたと思ふ

うろたへてわれ立てるなり速達を握りたるまゝふたたび座る

僅かなる仕事に金をくださると降りましし姿永久に思はむ

氣にかかる飜譯はおきて歌つくり居りし夜ふけに悲しみをきく

命せられしフーフエランドの飜譯は年渡れるに果さざりけり

の言々、歌々に泌み出づる現實の悲想を私達は力强く感受するのである。正直な潔癖な氏の一面にはかうした恩愛に泣く情誼の厚さもみ逃せないのである。

父病む(抄五首)

いたつきにあはてて吾れを呼びよせし父は安らかに金のことをいふ

死病ならば金をかくるも勿體なしと父の言ふことも道理とおもふ

氣輕に言ひては出づれ歪みはてし顏のむくみは氣にかゝるなり

電車乘りかへにダ河岸の雜魚買ひにけり道々にしてくさる嗅ひす

祖々病氣づかふ妻子らに潮たるゝ淚の何を渡す

父猶病む(抄三首)

親しからぬ父と子にして過ぎて來ぬ白き胸毛を今日は手ふれぬ

遠々に來てみ給へる君がまへにくどくど病を言ふ父を聞く

病む父がさしのべし手はよごれたり鍍金指輪ぞわが目にはつく

こゝに至つて氏の生格氣象現實述情は、單に他人行儀と言はれるほど冷靜な凝視をしてゐる。忍びがたい親子の情愛も、氏の冷靜な藝術良心、藝術潔癖は、最後迄妥協をみせないのだ

親しからぬ父と子にして

過ぎこし兩者の間には、悲しい新舊思想の懸隔や、學問の相違や、更に生命觀、生活觀、人生觀、さうした事々に相そぐはぬものが在つたに違ひない。そのみぢめな父を蔑み乍らも、はがゆく思ひ乍らも、親なればこそ嘆きもすれ、憂鬱にもならざるを得ないのだ

鍍金指輪の父を輕蔑しながらも病のことをくどくどきく卑貧な父をあはれみ乍らも、輕蔑しきれないものがあつたらう。そこに氏のなやみ、憤り、矛盾の感情が常に氏を苦しめてゐたであらう。

そして常に卑屈な父を目の前にみせつけられた氏の身には

家うちに物なげうちていらだちつ父を思ひ遺傳といふことを思ふ

いきどほり妻呼ぶこゑの父親に似てこしことを吾れ知りて居り

かうした反省的な淋しさを常に味つて居たに違ひない。そこに情愛のさびしさがあるのだ。

けれども『鳥のまさに死なんとするやその聲濟し』とか

死に近き父と思へど言ふことのよろしからぬを今朝もさびしむ

とあはれんだ氏も、遂に六月二六日

死に近くなりてふる里を戀ひにける父をやせめて親しと言はむ

と言はねばならなくなつたけれどもその時もう父はこの世の者ではなかつたのださびしい父子の幽明は終に隔てられて、氏のかすかな安緒は大きな淋しさを常に失はれずに藏して居るだらう。

私は今『往還集』の中から殊に現實的傾向について感じて來たので、多く人事抒情の歌を論じて風景旅情の歌にはふれなかつた。氏の歌風が現實的になるにつれて次第に旅情風景の歌にも現實味を帶びて來たかは言を俟たぬことであらう。猶手許に歌集がないので一々例證するのはやめるが次の如きものがあつた筈である

戸をしめて物の香こもる宵頃を下水に集る蛙うるさき

いにしへの瀧の河内はからからに遊びあらして岩のよごれし

五月雨に濁る井戸水すべをなみ妻は貸家を見に出でにけり

貝ボタンすりて業とす明日香人かげろふの中に貝殼を拾つ

山のかげこゝ及べる小學校授業時間の庭の霜どけ

他にもつと適例があるかも知れない。

私は今あわただしく『往還集』を讀んで稿を起して來た故、多くの諸氏と意を異にする所や例歌に誤りがあるかも知れない更に最近の『アララギ現實主義』については幾多の問題があらうと思ふが茂吉にしろ文明にしろ今後の方向は、輕々しく私達の言へる物ではない。(八、二、十三)

磐新歌壇

小山田滋選

『汽車の旅』 緞木鳥輝

○ひた走る汽車の窓べに寄り添ひて語らふ若き女の二人

○我が前に語らふ女美しき瞼を持ちて窓に倚り居り

○一人旅の心安さになれし頃ふるさとの山ひたぶる戀し

○窓繰れば外は明るき月野原北を指してぞ走る我が汽車

春の雨

川口直樹

雨が降るふる
夜更けの庭に
八つ手たゝいて
雨がふる
忘れた人の來るやうな。

雨が降るふる
夜更けの窓に
硝子ぬらして
雨がふる
泣いた淚の散るやうな。

君や何時こ

庄司清壽

病はふけた身を
看病してくれる人もない
床に横へて
君と二人
嬉しかりし日の事を思ふ
胸のときめきを
君と逢ふごとにおぼへ
ひしと君の手を取り
綠の野邊で
『鶯が鳴いてゐますね』
と　語りしも
今は夢か
薄曇の海邊で見た
君の居は
あまりにも美しかつた
バラの蕾が開きかけた樣に
しつかりとだきあつた二人が
長い〜接吻によつたのも。

小品 鋪道

鯉淵武司

一

二人連れの人があちらからやつてまゐりました

そこは兩側にビルヂングなどの建竝んだ、とある東道でしたが、ちやうど外國へいつたかとおもはれるやうな氣分がたゞよつてゐたのです

『ちよつと君……』

といつて一人は立止まりました

『なにかね』

さういつて、もう一人も立止まつてふりかへりました。

『みたまへ、しらない間にずゐぶん新らしい石が敷かれてゐるね』

『いはれてみればなるほどあんまり石が白いので、眩しいくらゐだ。いつたいどこから持つてきたのだらうね』

『さあ、たぶん遠い遠い山奥からだらう』

『といふと、ぼくたちのやうに、やつぱり田舍から出て來たのかへ』

『まあさうだ。石だから自分勝手に來たのではないのだらうけれども、かんがへてみれば、ぼくたちの身の上と同じことだよ。この石は都會へきて、これから何年も何年も人々に杖で叩かれたり、足で踏まれたりして、身体をきたえながら、くづれるまでくらさなければならないのだ』

『いつたい、この石はかつて都會をあこがれたことがあつたらうか?』

『さあ、それはどうかね。とにかく、もはやどうすることもできないのだ。こゝでくらすばかりなのだ。

『しかし、山にうづもれてゐるのと、叩かれても踏まれても都會にあらはれて生きるのとでは、どちらが幸福なのだらう。

かういつて、ひとりの人は持つてゐたステッキでコツコツとその鋪道を叩きながら、注意ぶかい眼が相手の顏をみました。

相手の人も、はたとゆきつまつたやうに、しばらくかんがへてゐましたが、やうやくかういつたのです

社會の今日

東京の市村座全燒△イヤハート。バトナム夫人大西洋横斷飛行成功(昭和七)

○

貸傘のかへらぬ數や五月晴　成外

春さりて續く日和やこの町の街哉ゝ檢査をふれて來にけり　相良義重

5月21日
△長篠合戰(天正三)
△佐野生野兩鑛山を拂下ぐ(明治二九)
△

講談 劍火無情 (19)

津屋義人作 菅野祐作畫

軍資金徴收(四)

隊長が突然此處に現はれたのには藤田小四郎は少からず驚いた

僧侶は委細構はずに天秤棒を振廻した。其前に立つた田丸稻之右工門

『才藏和尚御苦勞でござる唐土の三藏法師には孫悟空が附いてゐる、才藏和尚は孫悟空を乘帶なさるか』

斯う言はれて僧侶は天秤棒を捨てゝニコ〜しながら

『ヤア長崎修業の蘭法醫者篠崎頼庵先生も到々化の皮を顯して、水戸の御家老田丸稻之右工門、イヤお互に芝居するのは面白うござるの』

稻之右工門も高笑ひして

『イヤお正月には萬歳や才藏、春になると墨染の出家姿。却々良い狂言を出しなさるな。ウワッハ、、、ハ

『何がさて、田舍役者は座頭も三枚目も、老け役も勤めに[illegible]、一人前でないな、才藏のマッチャラコはして廢めまして、思ひ切つて頭をクリ〜坊主とし俄盲に仕立てゝ按摩をやつてゐましたぢや、江戸を離れて後は是なら誰が見ても徳川を倒す爲の芝居とは思ひませんわい。下總路へ入つてから結城の町でチョイ〜面白い事もあつて、今度は道を變へて野州路、イヤお醫者様に再會するとは思はなんだ』

稻之右工門は容を正し

『田岡太助殿、秋岡丹三郎殿は如何なされしや』

『オ、あれはな男振りも好し坊主にならんでも誤魔化せます、手前とは別れて江戸から下總路へ入つたと申す、さりながら再會の地は定まつて居りまするわい』

此對話の中に藤田小四郎は襟を正してズッと前へ出た

『田丸氏此方は』

『されば今お引合せ申す』

斯う言つた稻之右工門は店の間に誰れもゐぬを見て

『藤田氏、士州の勤王派。卽ち貴殿も吾々も同志でござる』

『エッ、さようでござるか最前より無禮の段々、田岡氏御容赦に預かりたい』

『田岡氏、これなるは水戸藩に名たゝる、大學者の藤田東湖先生の三男、同苗小四郎殿でござる』

『イヤそれとは知らす失禮!』

双方は直打解けて胸襟をひらき合ふ事とをつた

稻之右工門は言つた

『斯樣な所で聞くも異なものなれど、娘の行方を御存知か』

法衣姿の大助は少時思案して

『行方と仰せあるからは御令嬢には御一緒でござらぬか』

『されば貴殿や秋田氏と會ふたる其夜、豫て目を着け居つたる八丁堀の同心彥崎道十郎に取圍まれ娘と別れ分れに相成り今に其行方が判りませぬ』

『それは御心配でござるな手前もあの夜、幕府隱密に逐はれ秋岡丹三郎と分れ別れ……ハテ不思議な事もあるの』

『フーム扨も不思議』

斯う言つてゐる處へ、此家の主人鯉屋彌惣衞工、安心の態で出て來た

『今宵供養をお願ひ申した御出家様、其お武家樣と御懇意とあらば私も安心致しましてござります、御用金も相當差出しますれば兎も角奥へお通り下さりまして一獻召上つては下さりませぬか』

大助和尚、につこりとして

『ヤア御主人、そんなら御諒解下されたか、普通の押借强盜とは違ふ。此御人は愚僧が能く心底知つたる勤王の志士、又此お若いお方も立派な御身分。そんなら御主人、お言葉に甘へて御馳走に……なア田丸、藤田の御兩所、各々方も御一緒に……』

斯う言はれては、一同面目ないやうな氣がする。主人も幕參りで留守と言つたが、今更きまりが惡い

何だか譯が判らぬが坊さんの斡旋で此鯉屋の奥座敷で多勢が大言壯語して太か酒を過ごした。それが卽夜宇都宮の城主、戸田越前守の耳に入つた

有給社員招聘
年齡 二十五才以上五十才迄
經驗ノ有無ヲ問ハズ奮闘ノ士ヲ望ム
希望者ハ履歴書添附アリタシ追而面會時日ハ通知ス
有隣生命保險株式會社
平出張所々長 鈴木健司
平町大町八番地

世界に類なき 愛國ミシンの出現
特價一臺金參圓九拾錢
△家庭裁縫の簡易化
一般家庭に於てミシンの便利重寶なる事は皆さんの御承知の通り其の需要を要求して居りましたが從來のミシンは數十圓數百圓の高價の爲一般家庭用として購入出來ませんでしたが今般斯界の大家田島先生の數ケ年の苦心研究によつて斯く大衆向の愛國ミシンが完成され然も突飛的の安價にて從來のミシンと遜色なく便利で各御家庭には必ず常備として一臺なくてはならぬ樣になりました。本機の使用方法は極めて簡單で御子樣方でも三十分位の練習で自由に和洋の御仕立が出來ます。御注文は代引又は前金に願ひます。送料實費)
◎外交員募集
多賀郡石城郡下代理店 平驛前電話三二一番 マルカ 店主加藤正保

氣管、食道科、耳鼻、咽喉科、專門
平町南町(元眞木辯護士跡)
增田耳鼻咽喉科醫院
(入院隨意) 電話四八二番

生花教授
池ノ坊流 生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

耳鼻咽喉科專門 院長醫學士 鈴木正男
齒科口腔外科 日本齒科科長醫學士 鈴木喜政
下谷區入谷町二九一 入谷改正通り東交番前
鈴木醫院

內臟外科
外科一般
花柳病科
入院隨意 自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡(電話四七五番)
安齊外科醫院

名湯のお知らせ
神經痛。リウマチス。婦人病。其他此ノ名湯ニ一週間以上入浴スレバ全治スルト云フ其ノ効無二ノ礦泉デス、四倉驛ヨリ十町自動車ノ便アリマス。
宿泊料一泊壹圓……(三食付)
眺望ノヨイ 礦泉旅館 寅の湯
四倉町新町戸ノ内九

五月節句の尚武人形や鯉のぼり
安く良いので
御座敷幟揃
武者人形
金太郎人形
外幟
布鯉
當撰
スガノヤ提灯店
平四丁目 電九五

五月武者人形
特價大賣出し!
毎度格別ナル御同情ニ預リ難有御禮申上マス例年ノ通リ御座敷幟及布鯉御道具類等一式豊富ニ取揃陳列致シマシタ
御得意本位主義ニテ特價ニ差上マス。御一覽ノ程御待チ致シマス。
平町三丁目本通リ
落花生問屋 叶星號
加藤提灯店

五月人形賣出し
非常時 日本に意氣あらしむる尚武人形や昔を偲ぶ陣道具御太刀別誂の御座敷幟、布鯉類を豊富ニ陳列破格の勉强にて御つとめいたします。是非御一覽下さいます樣御願ひいたします。
平三丁目
金太郎玩具店

刻々激化する平町議戰
定員を超過する事實に六名
候補者愈々出揃ふ

三十名の定員に對し既に昨日までの正式届出三十一名に達した平町議戰は刻々激化今や未曾有の大亂戰を演じてゐるが今廿日は月見町から根本品藏氏(四八)政再、米穀商、事務長久田太平の正式届出あり、此の他齋藤角治、綠川喜三郎、永山富廣氏等も相次いで今明中正式届出を了し實戰に參加する筈で更らに虎視眈々として機の熟するを窺つてゐた丸山春藏氏が突如今廿日に至り平和會を背景にして出馬を聲明正式届出の上疾風的活動を開始する等々戰線に異狀ある事大、斯くて前記未届者の出馬は殆んど確定的であるから立候補總數は合計三十六名の多數に達する筈である

閑院宮
平驛御通過

盛岡へ御旅行中の閑院宮春仁王殿下及同妃殿下は來月八日午前二時十三分平着同二時二十二分急行で御通過あらせられる

會川延氏
出馬斷念
結局明渡しか

久保町方部から出馬確實と見られてゐた會川延太郎氏は十五日に至り遂に立候補斷念を決意表明したので同方部有志は極度に須須會川氏に飜意を求めて交捗中であるが會川氏は强硬に固辭してゐるので現議員荒川恒次郎氏の再起說、新進永山勇吉氏の出馬說もあるが結局は地盤明渡しの外ないものと見られてゐる

涙ぐましい
平窪青年の美擧
出征勇士家族の爲めに
一致して勞力奉仕

模範青年團として農村振興に協力一致の活動を續けて居る平窪村下平窪青年分團では明二十一日早曉から一家の働き手である子息を徵兵された滿洲軍人家庭を訪問し親しく寂寥を慰問し家族に代つて夕方迄勞働作業に從事する事となつた外貧困家庭には分團員が醵金して極力銃後の支援に努力する事を申し合せた

神谷村議戰
三名超過か
候補者顏觸

神谷村議戰も愈々來三十日に迫つたので各部落とも候補擁立の努力を續けてゐるが下馬評に上る人々は

榊原多章(政)吉田信夫(政)赤堀半五郎(政)鈴木庄之助(民)鈴木與右エ門(政)鈴木善壽(政)西山喜代太(民)須藤孝敬(政)佐藤新次郎(政)鈴木秀吉(政)志賀忠五郎(民)中野辰之助(政)佐藤長壽(政)

此の他變り種に元平區裁判所監督書記志賀庄三郎が出馬を豫想され結局定員超過三名の激戰が展開するらしいが政八、民四の分野は依然維持されるらしい

現議員の最終町會
匡救事業外數件附議

最終の平町會は今二十日午後一時から開催九千八百圓の本年度匡救事業として第三卜裏鎌田堤之內間道路幅員一間半延長五百間を新設すべく實地踏查の結果工費三千圓不足の爲め保留となつたのと總工費三十萬の巨費を要する國道舖裝工事の前提として數年來改修陳情中の五丁目地內から長橋に至る側溝幅員深さ各一尺が工費二萬四千圓中半額地元負擔で改修する旨此程縣から通知あつたので地元負擔の捻出方法に就て協議した

久の濱漁業
組合更生
改良繰網設備

久の濱漁業組合では數年來打續く不況と不漁に祟られて組合の維持經營も困難に陷つたので此の難局打開に就いて研究を進めた結果改良揚繰網を設備して組合の全力を擧げて此れに注ぎ更生に努むる事となり木村組合長は去十八日出縣設備費用一萬四千圓の起債認可を申請し赤土內務部長に會見陳情した

耕地組合長
本日保釋出所

双葉郡富岡町耕地整理組合長佐藤德右エ門(五〇)は詐欺罪として、縣農林主事補木村安三郎(四二)は公文書毀棄公印不正使用罪として平刑務所に留置取調べ中の處一段落を告げたので今廿日何れも保釋出所した

勇士の遺骨
平驛を通過

滿洲事變に名譽の戰死を遂げた關東軍飛行大隊所屬遺骨一柱は明後二十二日午後一時五十一分平驛着下り同五十八分發で通過するので各小中學校生徒、靑年團、在郷軍人其他各種團体がホームに堵列出迎する

飯野村で
自力更生
本日協議會

飯野村農會主催の自力更生協議會は今廿日午後一時から小學校で開催伊藤校長始め多數出席產業組合を中心とした購買、販賣、信用組合の振興、副業獎勵其他數項を協議した

判檢事炭礦視察　平

裁判所判檢事及書記の一行二十餘名は今廿日午後二時から內郷村磐城炭礦を始めとして入山、古河各炭礦の地下三千餘尺の坑內を視察すると

各濱活氣付く
四倉大網初揚に
大鯛八千貫の豐漁

書入れの夏職漁期近付いて出動すべく手ぐすねひいてゐる石城各濱は此の準備で異狀な活氣を呈してゐるが去る十七日初の投網を開始した四倉大網は第一回の揚網に見事な大鯛約五千貫の大漁あり昨日またぞろ大鯛三千貫の大豐漁を見た水揚相場は二十五割見當であるが漁期のトップに此の大漁を見た四倉濱は活氣溢れて居り一方小名、江名、豐間等の各濱でも縣の指導船磐城丸の報告を待つて鰹漁に一齊

受賞の產婆
平管內六名

二十二日須賀川町に開催される縣產婆會總會で表彰される平署管內の優良產婆左の如し

福場サダ、草野ナツ(各平)松本しン(神谷)小野寺ちよの(內郷)樋口リウ(湯本)

農繁託兒所開設
植田町外二ケ村に

郡內各地農村では農繁期も近付いたのでボツ〳〵托兒所が例年通り開設されてゐるが既に開設確定したものの外小川村では田久德次郎氏が代表で六月五日から十日間、大野村では近藤厚助氏が代表で同十二日より十二日間、植田町は鈴木佐助氏が主任で十五日より十日間小學校外三ヶ所に開設する事になつた

鐵道野球
今日準備會

平鐵道俱樂部主催春季スポンヂ野球大會の準備會は今廿日午後一時から平驛樓上で開き大會施行日、場所、審判員の選定、使用ボール、競技回數其他數項を協議すると

第一校こ泉校對戰

勿來、錦、泉、內郷尋高、好間、平一、平二、久の濱、四倉、湯本尋常、同尋高、十一校の郡下小學敎員野球大會は愈々來る七月九日午前九時から第一校で開催されるので第一校ではその準備試合として今廿日泉校へ遠征、午後二時から試合を開始したが兩校のメンバーは左の如くである

	(泉校)	(平一)
P	鈴木(孝)	井上佐藤
C	大塚	横田
1	中野目	松本(政)
2	鈴木(正)	松本(正)
3	鈴木(新)	佐藤
SS	椎名	水竹
LF	若松	根本(菊)
CF	荒	古川
RF	日根	丹野

島選手歡迎
今日マルトモで

磐陽野球後援會では昨十九日平商野球部の指導に來平した島秀之助氏の歡迎會を今廿日午後六時からマルトモホールで催すと

シボレー車謝恩に
美裝を凝らして來平

ゼネラルモーター會社シボレー自動車六萬台目に組立記念として同自動車は壯麗な美裝を凝らして全國一週の謝恩行脚に出發したが本縣下には二十三日正午平着各官衙新聞社等を歷訪するのをトツプに福島市を訪問、仙台方面に向ふ事になつてゐる。尙自動車協會平支部では特に歡迎の爲め湯本町まで出迎える外各種の歡迎を試みる筈である

自動車支部
役員會開催

縣自動車協會平支部では明二十一日午後三時から平警會議室に役員會を開催し縣外視察の件、シボレー六萬台記念號歡迎の件等を協議する

平三校修學旅行
貧困兒には保護者會から
旅費を補助か

平町三小學校六年生約四百五十名は來月一、二の兩日日光中禪寺方面へ修學旅行を行ふが旅程は水戶を經日光より電車二里徒步二里八町中禪寺一泊歸りは日光より白河、郡山經由の豫定で第一は曾我校長、力丸、松本(政)、根本、第二は津田校長、佐藤(信)、根本、大須賀、第三は赤津校長、石田、吉田の各訓導が引率するが尙該旅行に際し貧困の爲參加の出來ぬ兒童には當局者が協議の結果保護者會費より補助して同行する筈

暴行事件
罰金二十圓

赤井村大字赤井字大倉一四三農佐藤金彌(三〇)同鈴木隆衛(四五)の兩名が赤井第一共有財產保護組合員であるにも拘らず去る一月五日同村第一小學校で開かれた代議員會で代議員として入場し議長宮內喜作より退場を命ぜられたのに憤慨机の蓋で組合長を毆打し全治二週間の傷害を與へた事件は本日平區竹內判事から各罰金二十圓の判決を言渡された

乘務員會出席　水戶

運輸事務所管內助役運輸掛事務打合會は來る廿二日茨城縣那珂港惠比壽に於て開くが平驛では四名出席すると

少年家出す　好間村

下好間大館二四三瀨戶物商赤松源二方雇人宮城縣石越村前窪生れ千葉春雄(一五)は故郷が戀しくなり十七日無斷家出し昨十九日富岡町を徘徊中署員に取押へられ同署から平署を通じ主人に引取方の電話あつた

救世軍の特別講演會
明日張田東北聯隊長出陣

平町救世軍平小隊では明二十一日午後八時から同小隊に於いて救靈會を開催する事になつたが當日は仙臺市救世軍東北聯隊長張田中校が特別出陣講演する筈で聽講無料一般の聽講を歡迎すると、尙張田東北聯隊長は若松、郡山の講演後明日午後三時五十三分平着列車で來平する筈である

哀れな老爺　宮城縣

名取郡岩沼町中町三〇〇伊藤光太郎(七二)は昨年十月頃から營藏病に罹り各地を轉々して今二十日平町役場に辿り付いたので宮岡驛までの汽車賃を與へて旅立せた

窃盜犯判決
懲役一年四ヶ月

既報—住所不定無職平町生れ前科三犯酒井三郎(三五)が去る三月中平町大工町水戶鐵道通信區派出所より銅製藥鑵一ヶ(價格十三圓)外二件の窃盜、去る三月頃平町字仲間町四〇小椋竹次郎方に於て返濟の意思なきに拘らずこれをある如く裝ひ同人の妻ナミを欺き黑七子袷羽織一枚外二點(價格二十八圓)を騙取した住所侵入窃盜詐欺事件の公判は今廿日午前九時竹內判事係り三堀檢事立會、眞木辯護士列席のもとに開廷、求刑一年六ヶ月に對し懲役一年四ヶ月を言渡された

土湯から

けふは新綠の土湯溫泉へ來て、瀧川の音を聞き乍ら湯にひたつて居ます、須賀川牡丹園を觀て二十日には歸平する豫定です

（十八日白木英尾）

植電會社
弔慰金を贈
感電死亡者に

植田町水電會社では去る十三日高壓電線に觸れて死亡した同町阿部彌衛三男正(一〇)の家族に對し昨日弔慰金四百圓を贈つた

。。種痘　磐崎村小野田炭礦では昨十九日全從業員に種痘をなした

。。チブス　內郷村宮町田八一甕ユキオ(二五)は昨十九日腸チブスと決定隔離された

磐中人國記（三）
赤井嶽男記

第十一回生の卷　R

◇久保木氏の名文

『迎火』承前。線香の煙りは風にあふられ乍ら堂宇の中を香も無く薄もやの如くにさまよひ靡きて羅漢の裾を流るれば朦朧として奈落の精の浮び出てたるにも似たりけり。左手なる半ばかけ朽ちたる石橋を流れば鈴木氏とか書かれたる垣をめぐらせ奧城のかたへに影くらき桐の大葉茂りて其の下に煙りて燃ゆたる松木のたゆげに焔上げたり。

○

永久に寂しかるべき死せる憤梟の地も今宵のみは變り果てたる狀は彼所も此所も悉くして賑ひたり、薄くして夢の如きは月の大杉の繁みを落したる影なるべし碑の影人のかげ、皆ことごとに黑くして眞黑の如し、そは燃えたぎりれる迎火の影なり

○

物とし物の火に面せる反面のみは赤黑の衣つけたる赤鬼の如き面したるさまに之れ一つの好活畫圖を見る心地してそこともなく木の間洩る火のゆらめきを見詰むれば生きたる人はあらぬ人の昔を悲しみ思ふが如く貧も富も貴きも賤しきも皆同じ思ひの胸の悲しみは立ちのぼる只一すじの細き線の香の煙にも似て勝たる夢の五里の旅程を袖ぬれて沈行く思ひあらしむ寺の木々はやらぬ悲の聲を風に托して永久の淋しさを唧ち今宵の賑ひを呪ふにも似たり

○

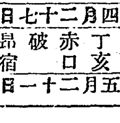
やにたゞぎりて立ちたる松の煙は毒の如き火の光をのせて息苦しき迄にあたりを埋めつきて、そゞろに思へばこれやこれ實に生きたる地獄のさまに非るかを疑はしめたり。嗚呼この生きた地獄思ふだに何ぞその聲の恐ろしくその響きの凄きや餘は斯く思ひて私に戰きたるなりき

○

病葉落ちて滅爲の鐘は響き渡りぬ、うす月夜のもやを縫ふて有線無線の碑は冷やけき夜露のしめりに濡れて沈み行くらむが如くゆるぎもやらぬ靜寂の氣はふるひみちて生ける人は只生けるが樣にさまよひてさながら意志もなく心もあらぬやうなる肉体がおそろしや一管のかすかなる血のめぐりに活きて遜くが如くに聲もなき碑の前に跪きぬ

あはれ宜にもあるかな、おのゝきの影よ、噫生は遂に斯の如きものには非るか斯の如き世のさまを生きとし生ける世の限りをつくして終にはのがるべからざる死てふ悲しみの運命の囚となりて、あはれや之の苔草の岩下にはかなくも一塊の土くれとなり果てるを思へば惜まるる人の命も朝露のそれに如かずあるものを、いかなれば敢て自ら煩悶し煩惱して人を慕ひ名譽を求め剩ね黃金に心を寄せて憧のほむらを逞うせんとするか。

（此項未完）



舊四月二十七日
日曜　丁亥　赤口　破　昴宿
新五月二十一日

諸判定應需
東京市本郷區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部　神誠館

▲一白の人　上下の意見取捨に迷ふ從來の業を守り安全▲二黑の人　氣持好く物事の運び行く日金談緣談殊に吉▲三碧の人　計畫圖に當りて利得大なる日動土建築は凶▲四綠の人　雄圖大に成果を收むべき日耐忍努力を要す▲五黃の人　引込思案は策を得たるものに非ず奮勵せよ▲六白の人　身心勤揺して取留めなき日動土及移轉注意▲七赤の人　焦慮して逆算を生ぜんとする日志就共注意▲八白の人　起業計畫大に進展を來すべし商利多大の日▲九紫の人　方策誤りを呈する兆あり安居して平康の日

平町慶弔錄

△出生
紺屋町二七馬目丈夫二女惠子
△婚姻
磐崎村藤原源內三二高木直一(三〇)
赤井村赤井田中一八木幡幸子(二三)
▲死亡
舊城跡四二坂島縣西伯郡大幡村井本三五四中野谷雄(四九)

平町會議員候補者
關內正一君を推薦す
推薦者
平町二町目（順不同）
鈴木堅助
田卷造酒之助
三井文吉
石川友次郎
丹野榮三郎
關內慶次郎
坂田藤助
長瀨延太郎
里見金太郎
責任者　平町二丁目十三番地　丹野榮三郎

電話特別開通申請受付
一、受付月日　五月二十二日ヨリ六月五日迄
一、設備費　金二百四十圓
一、加入登記料　金十圓（但シ加入申込登記ヲ有スルモノハ不要）
一、申請用紙　當局ニ備付アリ
其他詳細ハ當局窓口又ハ電話七〇〇番ニ照會アリタシ。
平郵便局

五月人形賣出し
座敷幟。外幟。武者人形
御道具類
平町四丁目角
菅野屋商店
電話一五七番

五月節句祝品大賣出し
水光齋祐月特作品
御座敷枠のぼり
裸金太郎人形
武者人形布鯉
陳列致しました是非御出下さい。
驚く程勉强致します。
御待ち申して居ります。
平町二丁目
陣野洋品店